

好きなことにいきいきと取り組む子をめざして

井上早苗

はじめに

T男は、新しい環境や新しい出来事、大きな集団に出会うとなかなかなじめず、慣れるまでには相当な時間を必要とする児童である。ところが、T男が所属する本年のクラス編成は児童7人教師3人、合わせて10人の集団であり、昨年の児童5人教師2人のクラスから考えると、本人にとって一層適応しにくい環境条件となった。

そんな中で、T男は、今していることを止められたり、自分にとって嫌なことを勧められたり、友だちの大声を聞いたりすると、自傷行為・他傷行為、大声で泣く、暇さえあれば自分の靴下を上げることにこだわる、トイレへの逃避行動などが多くおこった。これは自分の思いを通したいという本人の自我であるとともに、自分の思いを相手に上手に伝えることができない苛立ちにも起因していると思われた。そこで、少しでも問題行動を少なくして、できるだけ本児がいきいきと好きなことに取り組むことができるよう、この研究に取り組むことにした。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和61年11月27日生 10歳 小学部4年 男子
- ・心身障害児通園施設W学園通園（平成2年5月～平成5年3月）
- ・平成5年4月 本校入学
- ・両親、姉、祖父の5人家族。

(2) 諸検査による実態

遠城寺式乳幼児発達検査(H8.4月実施)

移動運動	手の運動	基本的習慣	対人関係	発語	言語理解
4:4	4:0	3:4	1:9	1:4	2:0

新版K式発達検査(H8.11月実施)

認知・適応(C-A)	言語・社会(L-S)
1:7	1:9

遠城寺式乳幼児発達検査では、移動や手の運動に比べ対人関係や発語や言語理解の遅れが顕著に見られる。新版K式発達検査では、認知・適応、言語・社会ともに低く、自分づくりの段階では、自我の誕生、感情や意欲の育ちの時期にあたり、模倣、「～だ」という自分の思いを伝える段階である。

(3) 生活を楽しんでいる姿、楽しめない姿

- ・パソコンに興味を持ち、担任を手まねきで誘って機械操作を促し、好きな場面が出たら自分で操作をして楽しむことができる。ただし、教師がそばで見ないと次の活動の

意欲にはつながらず、画面を見るだけで指示を待っていることが多い。

- ・ボウリングのピンを立てては輪などで倒す遊びや、粘土遊び、砂遊びのなどの感覚遊びに興味をもち、かなり長時間集中して一人で楽しんで遊ぶことができる。
- ・ぬり絵やはさみを使って紙を切りきざんだり、文字をなぞったりすることが好きで、かなり集中して取り組む。

(4) 行動特性

- ・T児は新学期は多くの友達が着席している教室に入ることに抵抗を示し、しばらく様子を見ているが、教師に促されて自分の教室に入る。また、合同学習の場面でも所定の位置には座れず、慣れるまでは廊下やトイレ、プレイルームの隅などに座って様子を見るなどが多い。
- ・次のような時には自傷（頭や肘・おしりなどを床にうちつける）他傷（つねる、噛む、蹴る）行為が見られたり、大泣き、首振りなどの行動が見られる。
 - 無理をして所定の位置に誘われたり、自分が好きでないことに誘われた時
 - 自分の思いを理解してもらえないと感じた時
 - 担任が他の児童にかかわり、担任を独占したいという気持ちが強くでた時
 - 友達が大きな声を出した時
 - 好きな遊びをしていて活動を止められた時
- ・日常生活の慣れたことでも指示を待って行動する傾向が強く、その他の場面でも概念の弱さ、自信のなさ、理解力の乏しさから一つ一つの指示を待って行動する。
- ・発語はほとんどないが、教師や友達の言っていることはだいたい理解できているようであり、動作や目の動き、手の動きで自分の気持ちを教師に伝えることができる。

2 取り組みの構想と指導の実際

(1) めざしたい姿

- 次の見通しを持って、少しでも自主的な行動ができる子ども。
- 自由時間を自分の好きな遊びを見つけて、いきいきと楽しく取り組める子ども。
- 少しでも情緒が安定した子ども。
- 自分の気持ちを伝える力をもった子ども。

(2) 指導の方針とその実際

- 次の見通しを持って、少しでも自主的な行動ができるようにした取り組み
 - ・登校してから学習が始まるまでの行動がスムーズにできるよう、行動のパターン化をはかり順番を決める。
 - ・T男が好きな活動の写真を教師がカードで示し、本児が選択した後に行動する。
- 自由時間を自分の好きな遊びを見つけていきいきと楽しく過せる工夫をした取り組み
 - ・T児の好きなパソコン、ボウリング遊び、粘土あそび、紙切り遊びなど、本児がいきいきと過ごせる場を設定し、時間的余裕や条件に応じて誘ったり、教師が楽しそうに遊んでみせ、関心を持たせる。

- ・本児が楽しめる活動を見い出すようにし、教師と一緒に楽しめる時間を可能な限り作る。また、そのことに興味を持てば、「～してから」という言葉を入れて難しい課題にも挑戦できるようにする。

○情緒の安定をはかるよう試みた取り組み

- ・本児童はこれまで、集団活動や学習活動に耐えられなくなるとトイレや、静かな和室に逃げた。そのうち、隣の静かな教室に逃げていき、教師が呼びに行かないといつまでも帰って来ない状態が続いた。したいことを止めて連れて帰ったり、行くのを止めてもパニックをおこし、落ち着いて次の学習に取り組めない状態であった。そこでT児の希望を受け入れ、「すぐかえって来てね」と、教師が声かけして送り出すが、隣のクラスの学習が始まれば「自分の教室に帰りなさい」とT男に告げてもらうよう隣のクラスの教師とも共通理解をはかった。また、帰った時の対応として、本児の好きな活動を用意するよう努めた。その結果、本児は指示をきちんと聞いて教室に帰れるようになった。また、連絡ノートにより家庭を通じて医師との連携を図り、投薬等の治療を受けたりする中で、頻尿はなくなっていった。最近では、落ち着いて自分のクラスで過ごせるようになってきている。
- ・合同学習で多くの人の中に入るのを嫌がるときが多いが、本児の嫌がるときは無理をしないで、落ち着ける静かな環境で本児の好きな遊びを見つけて過ごせるようにし、落ち着いてからしだいにみんなの場に誘うようにした。

○できるだけ本児の意思を伝えるための表現方法を体得させる取り組み

- ・好きな遊びをしたい時やしている時に、本児が出すサインを見逃さないで、教師はできるだけ場にあった言葉やジェスチャーで対応し、一緒に反復したりして言葉を本児が身につけていくよう支援していく。

3 生活単元学習での取り組み

生活単元学習では、本児の特性から題材をできるだけ身近なものに選定し、支援の工夫に努めた。以下、実践例として、「いもほり宿泊『「フルーツポテト」を作っておいもパーティーをしよう』」における1時間の学習について具体的に述べる。

本時目標・自分たちが作ったおやつで好きな先生をもてなし、おいもパーティーを楽しむ。

- ・切ったり盛ったりして自分なりに楽しんでおやつを作る。

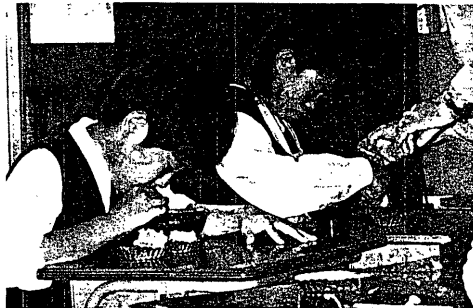
個人目標・先生と一緒にテーブルに作ったおやつをはこんだり、好きな先生を誘ったりして楽しくおいもパーティーをする。

- ・好きな果物を選び、先生に見守られることで安心して、切ったり盛ったりしておやつを作る。

学 習 活 動	T 児 対 する 支 援
1. 好きな先生を招いておいもパーティーをすることを	・どうしても本児が活動に入りにくいようなら、本時に関係したぬり絵を用意しておき、いつでもその活動に入れ

- 知る。
2. おやつを作り上げて先生をもてなす。
- ・くだものを切る。
 - ・先生を呼びに行く。
 - ・一緒に食べる。

- るようにしておく。
- ・切る活動に集中しているようならできるだけ中断を避け、その活動に十分な時間を与えるようにするが、タイミングを図ってつぎの材料を与える。
 - ・自分の選んだ材料を使って自分の力でスムーズに切る活動ができるよう、安心感を持たせながら見守る。
 - ・顔写真を持たせて教師も一緒に同行するが、できるだけ本児の主体的な活動となるように配慮して見守る。
 - ・呼んだ先生に盛り付け方、切り方、味についてほめてもらったら、「よかったね」と喜び合いたい。
 - ・トイレに逃避したら「帰って来てね」と声掛けて暖かく迎えたり、首振りが始まったら、さりげなく次の作業の指示を与えて、注意をそらしたい。



集中してくだものを盛るT男



先生の写真を見て招くT男

・本時の反省

本時は主に楽しむことを学習の目的として授業を展開した。その際、①こねるなどの本児の好きな調理活動を扱ったこと、②子どもたちにとって身近に目にする、好きな果物を選択するなどの場面を取り入れて自己活動・自己決定を促したこと、③招く先生の写真入りのカードをもたせて、意欲的に行動できるよう配慮したこと等の支援を工夫した。その結果、T男は意欲的に学習に参加することができた。しかしあまりにも教師が先取りした支援が、自主的な活動を育てにくいのではないかという反省もあり、多少のハードルを作る必要も感じた。

4 反省と今後の課題

1学期当初に比べるとT児は大きな集団生活にも慣れ、集団学習に楽しく取り組める場面が増えてきた。しかし、少しずつ発達しているとはいえ、問題行動が消えてはまた形を変えて表われ、また消えては表われるといった繰り返しをしている。問題行動がでる度に対処の仕方を担任間で話し合ったり、親との連携をはかりながら歩んでいる実態である。今後も、できるだけ本児の思いに寄り添い、本児がいきいきと楽しい学校生活を送れるように、いろいろな支援を工夫していくことが重要と考える。また、本児が充実感・達成感を重ねていけるような様々な活動を開発し、準備していくようにしたい。